



地域を盛り上げる春のイベント

第3回庄原さくらフェスティバル・4/8

No.6

桜名所100選の上野公園で、「庄原さくらフェスティバル」が開催されました。春の庄原を盛り上げるため、さくらフェスティバル実行委員会が主催し、今回で3回目となりました。

会場では、約60店の出店が並び、餅まき、ステージで披露される地元団体の演奏やキャラクターショーなどが行われ、家族連れやカップルでにぎわいました。また、昨年のカーブ優勝パレードで実際に使用された2階建てオープンバスが無料運行しました。

東広島市から訪れた20代の女性は「初めて来たが、出店の種類が豊富でとても良かった」と楽しそうに話していました。



▲カーブ優勝パレード使用のオープンバス

食と観光の窓口

道の駅たかの 第5回雪どけまつり・4/14-15

No.5

道の駅たかのオープン5周年を記念して開催された「第5回雪どけまつり～道の駅たかの周年祭～」に、市内外から約1万5千人が来場しにぎわいました。

駅舎周辺に並んだテント屋台では「道の駅たかの出荷者協議会」会員により、地元の食材を使った惣菜やスイーツ、手打ちそばなどの対面販売が行われました。また、子ども神楽やプラスバンド演奏などのステージイベントや動く車乗車体験も開催され、高所作業車に乗った子どもたちからは元気な歓声が上がっていました。

市外の来場者は「庄原市の“食”と“体験”を満喫できた。今度は庄原市の色々な観光スポットを巡ってみたい」と話していました。



▲高所作業車の乗車体験をする子どもたち

▲高所作業車上から

四隅突出型墳丘墓とは何か

時悠館で講演会・3/17

No.8

博物館の時悠館で、「弥生時代の備後北部一四隅突出型墳丘墓と交流」と題する講演会が開かれ、市内外から24人が参加しました。講師は、弥生時代の墳墓研究の第一人者で、元広島県歴史民俗資料館館長の桑原隆博さん。

講演では、高町にある「佐田谷墳墓群」などの四隅突出型墳丘墓が、中国山地が発祥の地とされる特殊な形状の方墳で、江の川流域から北陸など日本海沿岸地域まで広く分布していること、副葬品の塩埴式土器や吉備の特殊器台の搬入・搬出の様子から首長間交流が推測されることが分かりやすく説明されました。

参加者の中には「自宅の近くに資料で説明された墳丘墓がある。歴史のある地域だ」と誇らしげに話す人もいました。



▲資料を説明する桑原隆博さん

体験を通して学ぶ

ラジオ作り子供体験教室・3/25

No.7

口和郷土資料館で、開館40周年記念事業としてラジオ作り子供体験教室が開催され、小・中学生と保護者の約20人が参加しました。

ラジオの仕組みや電波の仕組みを学び、はんだごての使い方も学んだ後、親子でラジオを作成しました。参加者の全員が初体験だったため、説明書を見たり、講師や隣の人に聞いたりしながら作成していましたが、部品が小さく、はんだ付けも思うようにいかない様子で、皆さん苦労していましたが、参加者はラジオ作りを楽しみました。

同資料館の安部博良館長は「子どもたちに、機械や音響の仕組みなどにもっと興味を持ってもらいたい」と話していました。



▲説明を聞きながらラジオ作りに取り組んだ

手づくり紙芝居で認知症の理解を

認知症に関する紙芝居・3/15

No.2

社会福祉協議会主催の「介護者の集い」が開催され、認知症に関するサロン「あしたのカフェ」が自作の認知症に関する紙芝居をしました。この紙芝居は、まずは地域の皆さんに「認知症」について理解してもらい、誰もが安心して暮らせるようにと、メンバー全員で作成したものです。紙芝居をこの集いの参加者に見てもらい、メンバーの体験談や実際に介護をしている方の話を聞くなど、情報交換が行われました。

参加者から「こういう話をもっと早く聞いていれば、関わり方が違っていただかな」との感想がありました。今後も、「あしたのカフェ」は比和地域のサロンや、さまざまな集まりの場で活動を行っていきます。



▲多くの来場者でにぎわう会場

地域力で守り、残していく

ためしげ福寿草まつり・3/24-25

No.4

東城町久代の為重地区には日本に自生している4種類の福寿草のうち、準絶滅危惧種のミチノクフクジュソウが自生しています。毎年、地域住民が草刈りなどの環境整備と維持管理を行っており、福寿草の保存に努めています。

本年も3月上旬から行われる福寿草の自生地一般公開に併せて、ためしげ福寿草まつりが開催されました。メイン会場ではうどんやそば、川魚の塩焼きなどのバザーが開かれ、来場者は食事を楽しみながら福寿草の景色を満喫していました。

地元の方は、「環境整備を行うことで、年々福寿草が広がっている。縁起の良い花なので、幸せな気持ちになる」と話していました。



▲地域住民に守られ準絶滅危惧種の福寿草が咲き誇っている

気付く・つなぐ・見守る

総領自治振興区仙寿大学・3/16

No.1

総領自治振興センターで、高齢者の学習の場として年6回開校している「仙寿大学」が開催され、21人が参加しました。

今回は、市の保健師を講師に迎え、悩んでいる人に気付き、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなぎ、見守る「ゲートキーパー（命の門番）」について学習しました。講義では、近年の自殺の背景・実態や、ゲートキーパーとしての心構えについて学び、コミュニケーションの事例実践も行われ、理解を深めました。

参加者は「ゲートキーパーの役割、大切さがわかった」「本人の思いを尊重し、聴くことの難しさを感じた」と話していました。



▲寸劇を交えて説明

歌を歌ってみんな元気に

第6回ヒバゴンの「のど自慢祭典」・4/1

No.3

ウイル西城にあるウイルホールで、6回目となるヒバゴンの「のど自慢祭典」が開催され、市内外から約50人が参加しました。

この催しは、少子高齢化が進む中、市民が歌を通じて触れ合い、明るく笑顔になれる場をつくるのが目的で、当日は市内外ののど自慢が思い思いの歌を歌い、イベントを盛り上げました。また、市民吹奏楽団の西城ブルーハーモニーによる演奏や西城町神楽愛好会による大黒舞が行われたほか、駐車場では地元のそば好き会による手打ちそばをはじめ、おこわ、ばら寿司などが販売されました。

来場者は、「元気いっぱいの歌を聞いてこちら元気をもらった。来年も聞きに来たい」と話していました。



▲お気に入りの歌を熱唱